

筆者の自験 B.C.E. 52例のうちで、何らかの癌前駆症から生じたものは9例で、その前駆症の内訳は慢性放射線皮膚炎4例、脂腺母斑2例、色素性乾皮症2例、雪状炭酸障害皮膚1例(本例)である。雪状炭酸障害皮膚から生じた悪性腫瘍の報告は現在までに6例¹⁻⁶⁾のようであり、全例 B.C.E. であることは興味深い。熱傷瘢痕癌としては有棘細胞癌が多いが、慢性放射線皮膚炎からは有棘細胞癌、B.C.E.、ボーエン病、脂腺癌等多彩な腫瘍が生じる傾向があり⁷⁾、皮膚に対する発癌刺激の性質によって、続発する腫瘍の種類に差異が見られるように思える。

雪状炭酸圧抵治療は portwine stain に対しては出生直後の症例⁸⁾を除いては一般には無効であり、アルゴンレーザー療法、手術治療、化粧法などの方が適当と考えられる。しかし、太田母斑に

対しては良い適応であり、筆者も施行しているが、このような発癌性をも考慮に入れておくべきと思われる。

本症例については日本皮膚科学会第585回東京地方会において共著者の尹が報告した。

文 献

- 1) 青木文乃：形成外科，**1**；150，1958.
- 2) 本田光芳，他：皮膚臨床，**12**；636，1970.
- 3) 稲田修一，他：西日皮膚，**37**；212，1975.
- 4) 園田民雄，他：皮膚臨床，**20**；クリニカラー XX-13，1978.
- 5) 森口道子，他：6)より引用.
- 6) 山路和彦，吉江治彦：臨皮，**35**；249，1981.
- 7) 大原国章，他：日本皮膚科学会第581回東京地方会，1980.
- 8) Hidano, A. & Ogihara, Y. : J. Dermatol. Surg. Oncol., **3**；213，1977.

◇ 編集室だより ◇

雑誌名の省略について

最近、引用文献に掲載される雑誌名の略称は、1970年に American National Standards Committee から出された「International List of Periodical Title Word Abbreviations」による略し方が、国際標準として、一般化してきました。皮膚科領域に関係のある言葉の例を下記にあげました。御投稿の際には、これらを参考にしてください。

「臨床皮膚科」編集室

Acta Dermato-Venereologica : Acta Derm. Venereol.,
 Aktuelle Dermatologie : Aktuel. Dermatol.,
 Archives for Dermatological Research : Arch. Dermatol. Res.,
 Archives of Dermatology : Arch. Dermatol.,
 Australasian Journal of Dermatology : Australas. J. Dermatol.,
 British Journal of Dermatology : Br. J. Dermatol.,
 Clinical Allergy : Clin. Allergy,
 Clinical Experimental Dermatology : Clin. Exp. Dermatol.,
 Contact Dermatitis : Contact Dermatitis,

Dermatologica : Dermatologica,
 Dermatologische Monatsschrift : Dermatol. Monatsschr.,
 Dermatology Digest : Dermatol. Dig.,
 Hautarzt : Hautarzt,
 International Journal of Dermatology : Int. J. Dermatol.,
 Journal of Cutaneous Pathology : J. Cutan. Pathol.,
 Journal of Investigative Dermatology : J. Invest. Dermatol.,
 Zeitschrift für Hautkrankheiten : Z. Hautkr.,

〔日本の場合〕

日本皮膚科学会雑誌(皮膚科及び泌尿器科雑誌，皮膚科泌尿器科雑誌，皮膚科性病科雑誌)：日皮会誌，
 西日本皮膚科：西日皮膚，(皮膚と泌尿：皮と泌)
 臨床皮膚科：臨皮，(臨床皮膚泌尿器科：臨皮泌)
 皮膚科の臨床：皮膚臨床，
 皮膚科紀要：皮紀要，
 皮膚：皮膚